

## 古澤 博之 議員



### 南阿蘇村の災害対策について

古澤議員

近年、線状降水帯や記録的短時間大雨情報の発令が頻発し、これまで想定し得なかった規模の自然災害が日本各地で深刻な被害をもたらしている。熊本地震の経験を持つ南阿蘇村にとって、この異常気象を踏まえた防災対策の現状確認と強化は喫緊の課題である。村民の安全を確保するため、村の防災体制について以下の三つの質問の見解を問う。

### 避難所の運営体制について

古澤議員

村職員がすぐに駆けつけられない突発的な災害が発生した場合、避難所において、誰が中心となり、住民誘導や初期運営を担うのか。住民や自主防災組織の方々との具体的な役割分担について、明確な方針を問う。

### 円滑な運営を進める

村長

突発的で役場職員の到着に時間を要する場合、区長、民生委員、自主防災組織を中心に避難所運営を依頼している。また、避難所生活の安心安全のため、衛生管理、食事管理、健康管理の三つの管理に特に留意し、保健師をはじめとする関係課・機関と密に連携しながら、円滑な運営を進める方針である。

### 避難所の備蓄・設備の定期更新や保管状況について

古澤議員

熊本地震の教訓を踏まえ、食料や水、毛布といった基本的な備蓄品の定期的な更新や保管状況の確認、また、近年深刻化する夏の猛暑対策として、避難所の空調設備導入は整っているのか問う。

### 備蓄は毎年入れ替えを実施

村長

村内10か所の備蓄倉庫には、保存飲料水、非常食（ビスケット、アルファ米）、寝具類、衛生用品、衣類等を備蓄している。賞味期限や耐用年数を考慮し毎年

入れ替えを実施しており、備蓄倉庫ごとに数量を把握、直射日光を避けるなど劣化を防ぐ保管に努めている。入れ替え予定の食品は、廃棄せずに地域防災訓練やフードロス事業に提供している。熱中症対策としては、B&G財団の防災拠点整備事業を活用し、移動式スポットクーラーを3台設置している。しかし、夏の酷暑を鑑み、体育館の空調設備導入は喫緊の課題と認識しており、今後、整備に取り組む考えである。

### ハザードマップの活用方法と今後の展望について

古澤議員

想定外の災害頻発を踏まえ、ハザードマップは常に最新の状況に更新されているか。更新頻度はどれくらいか。また、デジタル媒体だけでなく紙媒体での確実な周知、観光客の安全確保のための多言語化表示について、村の見解をお尋ねしたい。さらに、VRや災害シミュレーション動画等を作成活用し、住民の防災意識を高めるために教育ツールとして導入をしてみてもどうか。

### 有効であるか検討

村長

現在、ハザードマップは紙ベース、アプリ、ホームページで確認できるようにしている。掲載されている浸水想定区域情報は、国土交通省が想定最大雨量860ミリを想定し作成したものだが、近年は線状降水帯による短時間での想定外の雨と土砂災害の危険度上昇が見られる。ハザードマップは令和3年度に更新を実施しており、今後も熊本県の災害想定の見直し等に合わせ、随時更新していく。海外の方向けには、ハザードマップや病院の位置図を英訳したものを閲覧用に作成。他に多言語対応の「防災情報くまもと」を紹介している。議員提案のVR等の活用については、有効であるならば採用に向けて前向きに検討する。

古澤議員

丁寧な答弁に感謝。南阿蘇村は毎回予防的非難情報をいち早く出していることに敬意を表すると同時に、想定外を基に最高レベルの防災対策を期待する。

村長

引き続き、「空振りを恐れず早めの避難を」という自助の観点からも、村民への啓発と防災体制の強化に全庁を挙げて努めていく。